

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
E113B005		保育の指導Ⅳ（言葉） (Method of Infant Education Ⅳ)							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択必修	2	2（R5入学 以前は3年）	教育学部	後期	金2	日本語		単独						
担当教員	氏名 向井 隆久 E-mail tmukai@oita-u.ac.jp 内線 7557													
授業の概要	領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指すものである。本講義では、幼稚園教育において育みたい資質・能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、幼児の発達に基づいた主体的・自発的な活動が生まれる具体的な場面を想定した保育を構想し、振り返りを通じた保育を改善する視点を身につける。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容について説明できる。							○						
目標2	幼児の経験と言葉の発達との関連について理解し、発達の見通しをもった保育を構想し意見交流することができる。								○					
目標3	保育の実践事例をもとに、指導上の留意点を明確にしながら、教材研究することができる。										○			
目標4	領域「言葉」の特性を考慮した、教材づくりや活用方法について説明できる。									○				
目標5	保育計画を立案・実施し、振り返りを通して保育を改善する視点を身につけ活用できる。									○				
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度（計10）								2	3	3	2			
授業の内容														
1 幼児教育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容														
2 幼児の経験と言葉の発達（1）言葉の発達の基礎														
3 幼児の経験と言葉の発達（2）話し言葉の獲得														
4 幼児の経験と言葉の発達（3）話し言葉から書き言葉へ														
5 幼児の経験と言葉の発達（4）言葉の発達に困難のある幼児への支援														
6 保育の実践事例に学ぶ（1）絵本・紙芝居（情報機器及び教材の活用法含む）														
7 保育の実践事例に学ぶ（2）言葉遊び・素話（情報機器及び教材の活用法を含む）														
8 保育の実践事例に学ぶ（3）言葉の発達に困難のある幼児（情報機器及び教材の活用を含む）														
9 領域「言葉」における保育を構想する視点（1）子ども理解と発達を見通した保育計画～「生活科」、「総合的な学習の時間」との関連														
10 領域「言葉」における保育を構想する視点（2）話し合い活動と教師の援助														
11 領域「言葉」における保育を構想する視点（3）言葉に困難のある幼児と教師の援助														
12 領域「言葉」における保育を構想する視点（4）環境の構成と教材づくり（情報機器及び教材の活用を含む）														
13 保育計画の立案														
14 模擬保育の実施と相互評価（情報機器及び教材の活用を含む）														
15 領域「言葉」と幼稚園教育において育みたい資質・能力 ～「10の姿」との関連														
ラーニングチェックシート	A:知識の定着・確認	○	・実践事例に基づく授業内では、教員の「問い」に対し、自己ならびにグループで検討し、発表する機会を積極的に設ける。				工夫その他の	・保育計画の立案及び模擬保育の実施においては、ねらい及び内容、教師の援助を関連づけて考えさせる機会を設けることで理論との統合を図る。						
	B:意見の表現・交換	○	・模擬保育における教員による講評ならびに受講生同士の相互評価に基づく、自己ならびにグループにおける振り返りを重視する。											
	C:応用志向	○												
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	幼児の発達(なかでも言葉の発達)に関する新聞記事（ネットニュース含む）や雑誌等を読む（12.5h）。模擬保育の準備をする（10h）。												
	事後学修	授業内で配布された資料や作成したワークシート（毎授業作成）を読み返し復習する（15h）。授業内容を踏まえた教材づくり（7.5h）。												
	想定時間合計	45												
教科書	特になし（教員作成の資料を配布する）													
参考書	・文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社（2017年）ISBN：978-4805402580 ・文部科学省『幼稚園教育要領解説<平成30年3月>』フレーベル館（2018年）ISBN：978-4577814475 ・太田光洋・野中千都・古相正美（著）『保育内容「言葉」一話し、考え、つながる言葉の力を育てる一』同文書院（2021）ISBN：978-4810315066													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト		10%	○									
	個別小レポート		20%	○	○								
	授業及び保育場面の観察などのグループ活動への取り組み状況		10%				○						
	保育計画の立案と模擬保育の実施		30%			○							
	学期末課題レポート		30%		○	○	○						
注意事項													
備考													
リンク	URL												